

私のけいけんの話し

かニ ハニム ファイルズ

初めに、このしゅうかくきんにしこんだ時

うかるかどうか分かりませんでした。しかし

ごうかくしゅうしよをもらうことかでき、と

てもうれしかつたし、またしんじられませんが

でした。かみさまにありかとうと言いました

として沖繩行くじゅうんびをしごかふことも

心配しました。あたまの中で、日本に行くと

もなるべく早くもどつて来たかと思ひました

としこひこうきにのつて、沖繩に行きました

一週間ぐらいいここに居たあと、とてもホ

ムンツクになりました。しかしそのあとはモ

う大丈夫でした。そしてだんだん友だちがで

きたので、楽しかったです。

沖繩の人たちかとてもやさしくて、あた

にかいです。初めて一人で遊びに行つた時に

へいわ通りのおばあさんたちとも友だちにな

りました。おばあさんたちかいつもんかあ

て、あなたはどこから来ましたか。しと

う	い	こ	ク	か	な	と		っ	と	も	を	心	い	フ		し	と	き
で	る	い	ラ	し	と	の	今	た	か	し	す	し	で	ア	の	た	私	ま
き	の	ま	ブ	よ	友	友	は	方	で	一	る	て	し	イ	こ	あ	が	し
て	で	す	に	う	だ	だ	、	か	き	人	い	い	よ	ル	た	あ	言	ま
い	、	。	入	か	ち	ち	こ	い	ま	だ	る	い	。	ズ	え	、	い	し
ま	だ	と	っ	い	に	ち	こ	い	す	っ	の	る	。	か	は	と	ま	し
す	い	も	て	し	な	か	の	い	。	ち	で	。	。	沖	と	。	し	て
。	たい	い	い	こ	り	と	友	。	時	ャ	。	。	。	糸	と	。	。	。
私	い	っ	。	く	た	と	だ	。	々	ハ	。	。	。	の	も	。	。	。
は	み	し	と	れ	い	も	ち	。	。	と	。	。	。	人	あ	。	。	。
、	ん	よ	し	ま	の	あ	か	。	。	。	。	。	。	な	も	。	。	。
時	な	けん	けん	した	で	た	い	。	。	。	。	。	。	ん	し	。	。	。
々	は	め	め	。	。	か	。	。	。	。	。	。	。	て	。	。	。	。
、	話	い	勉	。	私	。	。	。	。	。	。	。	。	、	。	。	。	。
さ	す	勉	強	。	の	。	。	。	。	。	。	。	。	し	。	。	。	。
び	こ	強	。	。	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
し	と	は	。	。	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
く	は	、	。	。	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
て	、	も	。	。	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
、	も	。	。	。	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

マ	し	ー	ツ	ア	で	は	、	も	ち	ろ	ん	か	ら	い	物	に	は	れ
料	理	を	作	り	ま	し	た	。										
い	ま	し	た	。	と	ッ	ポ	の	ま	な	し	ろ	ヤ	ハ	の	家	で	そ
子	供	た	ち	か	お	い	し	い	け	ど	、	か	ら	い	で	す	、	と
み	ん	な	か	い	ッ	し	ょ	け	ん	め	い	食	べ	て	、	そ	の	あ
み	ん	な	と	と	も	た	の	し	か	っ	た	で	す	。	食	べ	た	時
魚	カ	ー	レ	と	カ	ー	シ	パ	イ	を	作	っ	て	あ	げ	ま	し	た
ま	す	。																
週	末	に	、	特	に	、	土	曜	日	は	、	色	々	な	こ	と	を	し
な	り	ま	し	た	。													
し	く	て	、	う	れ	し	い	い	で	す	。	み	ん	な	は	、	今	家
す	。	み	ん	な	と	い	ッ	し	ょ	に	だ	っ	た	ら	と	と	も	た
語	と	か	、	マ	シ	ー	語	な	ど	で	と	も	お	も	し	ろ	い	で
え	ば	、	中	国	語	と	か	、	か	ん	こ	く	語	と	か	、	ス	ベ
十	五	人	ぐ	ら	い	で	す	。	外	国	語	は	色	々	あ	り	、	た
ポ	の	人	た	ち	は	日	本	人	で	す	。	全	部	で	だ	い	た	い
ま	す	。	と	し	て	日	本	語	も	上	手	に	な	り	ま	す	。	と
ち	に	会	っ	た	方	か	い	い	と	思	い	ま	す	。				
い	ッ	し	ょ	に	ゲ	ー	ム	を	や	っ	た	り	、	話	し	た	り	し
ほ	か	の	友	だ	ち	か	い	と	か	し	い	時	、	と	ッ	ポ	の	人

ていうけど、日本はまだまだです。しかし、
みんなが大丈夫と言ったので、私は心配しな
かったです。いっしょにたつたら、あもしろ
くて、色々な沖繩の事がとても勉強になりま
した。

時々、本当に帰りたくないと思つていたけ
ど、そんな事は、もちろんできないでしょう
しかし、できれば、日本語の勉強を続けたい
と思つています。しかし、できるかまだ分か
りませんね。

県庁のみなさんに、色々お世話になりま
したので、本当にありがとうございます。
特に私たちが、みなさんをたすけてくれた、ひろ
みさんにありがとうございます。かのじよは、りにほに
仕事をしました。おめでとうございます。こ
れからもがんばって下さい。

ほかの県庁のみなさんにもう一度ありが
とう。国のだいひょうとしてもありかとうこ
ざいました。この一年間は、私にとつて、と
ても大切でした。この事をけしこ、わすれな

いでしよ。私かほうもんすることかできた
 ホストフアミリーでも、一言たようにありか
 とう。かれらは私を家族のいちいんとしてあ
 つか、こくねました。ありがとう。
 ではとろとろあわりたいと思います。あと
 二三ヶ月しかのこりかありませんか、もうす
 でにマリーシアの人々や家族とともにわかち
 あいたいすばらしいおもいでかできました。
 みなさんもぜひマリーシアに来て下さい。
 私かあはないをしたいとおもいます。私たち
 はかんげいします。
 マリーシアすれば、マリーシアをまします
 好きになるはず。ではマリーシアからあ
 りかとう。沖繩のみなさんによるしくお伝
 下さい。

尽信書不如無書

シンカポール

夏月梅

私は景費留学生として去年の四月に沖縄に
来ました。一年間は短いとは言え、その間に
日本にっいていろいろ知ることができました。私
にとつて特に意味深い事は、来日前、本で読
んだり人の話を聞いたりした「日本」という
固が、實際生活して知った「日本」と違つて
いう差を見させたことだ。

日本は単一民族から成る単一の社会である
と言われる。私を乞う思つていた。しかし沖

縄の人や文化と接すれば持つほどの、さうい
う考えがたんと変わつてきた。沖縄の人
の顔は典型的な「日本」の顔とは少し違つ
たの色が違つて、目鼻立ちが、きりして
ると思う。また沖縄の歴史、文化、宗勸など
も独自の特色を持ってゐる。奄甲墓を見ては
驚き、パインントウを見ては驚き、沖縄に来て
以来驚きの連続だった。これらの行事や祭り
は「日本的」と紹介されてゐるものは異

あり、特有の文化だと思ふ。私の国シンガポ
 ルは多民族国家で、いろいろの文化を持つて
 いる。日本は単一民族国家であるとは言ふ、等
 質な社会ではないとつくづく感じた。

日本を批評する外国の本を読んだりと
 日本人は極端に内向的で、¹外国
 観念が非常に強く、¹外国人に
 対して、不信感を持つて、いろいろに
 描かれて、このため外国人との付き合
 いを嫌うといふ印象を与へる。¹⁰冊
 の本のうち半分以上の本に

このような事が書かれていたら、偏
 った。日本人は市井から津繩へ来る
 前は不安で一人て、かんぱらば、知
 り立をし、ければ、と氣負つて、
 した。親切で親しみやすく、た
 ん友達かできた。おかげで、果
 然の氣負いは、どこかへ飛んで行
 ってしまった。日本での生活
 を楽しおエネルギが湧いてきた。
 中国に、¹尽信書不如無書と
 いふことわむ

がある。本の内容を全部熟読しにすると、この本の存在は無いに等しいという意味だ。私にとつてこのことめづは、知識としてよく知つていゝ言葉であつた。しかしその真の意味が、今、日本へ来てはじめて理解できたのだ。まさに目から鱗が落ちた。このようにして、私の日本人感は一八〇度変わったのである。これは私にとつて留学生活の意外なゆ樵であり、貴重で最大のゆ樵だろう。

平成六年一月二十日

再見……

私の初めての留学

デ・デイ・ヤン・テイ

私はインドネシア大学の文学部の日本学科の学生です。大学に入学してから、日本語を勉強するようになりました。日本語だけでなく、一般常識としての日本の文化、文学史、歴史も勉強してしました。

一九九二年十一月頃の沖縄県費留学試験に合格して、とてもうれしくて、これからの沖縄での一年間の事で頭がいっぱいになりました。

2

た。だから、出発の日が待ちどろしかつたです。や、と、今年の四月十日に沖縄の土を踏む

1

ことが出来ました。ジャカルタにある大学に入学してから、西スマトラに住んでいる両親と離れて、一人暮らしはもう慣れていましたから、来る前に一人で外国に住む事はあまり心配がありませんでした。だから、沖縄に住んでいる事をけっこう楽しんでいきます。沖縄は住みやすく、町はジャカルタほどそんない

忙しくないと思いません。よく見たら、インド
 ネシアに似ている事は沢山あります。食べ
 物や服などです。例えば、沖縄の織物はイン
 ドネシアの中部の南の方にあるスンバワとい
 う所の織物にとても似ています。サーター
 アンダギー、トーフチャンプル、かきあげ等、
 インドネシアにそれに似ている物がありま
 す。
 夏休みに本土に行く機会がありました。そ
 の旅で、もと日本について全体的な事が分
 かるようになりました。沖縄を出発して、ず
 と北に行くと、長崎から北海道まで一カ月ぐ
 らいで色々な所を見て、色々な事が分かるよ
 うになつて来て、外国人として違いをよく見
 つけました。日本に来る前は色々な習慣、宗
 教、民族から成立つインドネシアと違つて、
 日本は全国的に同じだと思つていました。沖
 縄に着いた後、沖縄がイメージにある日本と
 は大分違うという事が分かりました。北海道
 に行つた時にまた違いを見つけました。沖縄

本州、北海道、三つの日本の家の形が気候の差異を反映しているという事がすぐ分かりました。

夏休みの旅は本当に良い旅でした。長崎、倉敷、岡山、姫路、神戸、大阪、奈良、京都、東京、新潟、北海道へ行つて、知り合いの人達と会つて、色々な所へ案内してもらつて、とても良かったと思ひます。ちようどお盆の時、新潟の先生のお宅にいました。夜、一緒にお墓にお参りしました。その長い旅では沢山の事が勉強になりました。

夏休みの帰りに大阪から飛行機に乗つていゝる時、また沖縄の青空を見ると、初めて見るやうにとても感動しました。本当にすばらしいかったです。沖縄の海もとてもすばらしいです。日本本土だけではなくて、沖縄でも沢山の観光地へ旅行したり、見学したりしました。後期に入ると、また忙しくなりました。授業は週に十三コマあって、いつも宿題がありませんが、授業をととても楽しみにしています。

特に日本語の授業です。日本語の文法だけでなく、日本語の授業で、ニュース、歌、小説も教材になります。日本事情の授業も私には本当に面白く、先生が教えてくれた日本や沖縄の事が日本人の理解に役に立ったと思います。先生方はやさしくて、色々分からない事を説明してくれました。

寮の生活も楽しんでいます。あまり問題がないけれども、たが最初に困った事は風呂場の事でした。そのような共同の風呂場に慣れ

ていないから、大変でした。スーパーで買い物する時、とても気を付けなければなりません。いつも買う前によく食品の原材料を見なければなりません。なぜなら、イスラム教徒として豚肉、豚エキス等を食べてはいけないという規律があるからです。

寮のユニットの友達には皆やさしく、親切な人達です。ユニットのメンバーは皆仲が良く、親しいです。皆は十二人が一つの家族のよう、一緒に暮らしています。私はB棟四

階に住めて、本当に良かったと思います。私
 が色々な質問でうるさくても皆はきちんと答
 えてくれました。皆は本当に良い友達です。
 私は寮での生活が好きです。自分がさびしい
 時でも、悲しい時でも、皆は声をかけてくれ
 ます。楽しい時もいつも一緒にです。リビング
 で話し合ったり、テレビを見たり、外へ一緒
 に出かけたりしています。他の県費留学生と
 もよく一緒に遊びに行つて、楽しい生活を過
 すごしています。

沖縄での国際交流で日本人だけではなく、
 色々な国から来た留学生達とも知り合う事が
 出来ました。特に琉大の留学生達との間で
 す。昨年六月二十七日に石垣で行われた第六
 回大海洋祭―国際親善ハリーリフエステイバ
 ル―に三十人の琉大留学生と一緒に参加しま
 した。七月十一日には渡嘉敷島で行われた国
 際交流シンポジウムで話す機会もあって、本
 当に良い経験だ、と思います。

せっかく日本に来たのだから、高校生の時

からの希望である生花を習うという事を実行していきます。日本人の友達の紹介で毎週一回、生花の先生のお宅へ通っています。先生がボランテニアで教えて下さるので、花代しかお金がかかりませぬ。本当に助かります。

お正月に、ある先生のおかげで、私は日本の新年を過ごす事が出来ました。それはとても日本的で、お節料理を食べたり、カルタとりをやったりしました。一番意外だったのは先生のお父さんにお年玉をもらった事です。

その日には一緒に初詣にも行きました。神社でおみくじをひいて、大吉が出ました。私はイスラム教徒ですから、それを信じてはいけなけれど、とてもうれしかかったです。私はその日、まるで自分がインドネシアの断食明けの中にいるのかと思いましたが、なぜなら、日本のお正月の雰囲気は本当にインドネシアの断食明けに似ています。

あと、二カ月しか残っていません。また知りたい事や勉強したい事が沢山あります。い

つかまた日本に來たいと思います。私は沖縄
県費留學生として日本に來て、本当に良か
たと思います。沖縄県のおかげで、私の一生
の中でこの一年間は良い経験とすばらしい思
い出でい、ばいぞす。県庁の皆様、大変お世
話になりました。琉球大学の先生方、全ての
友達、生花の先生、本当にありがとうございます
ました。

平成六年一月

沖繩の青い空

クワンスター

沖繩に留学する事になると分かった時、

てもうれしが、たけれどもちよつと心配でし

た。日本語と日本文化を専門として四年間も

勉強している私は沖繩がどこにあるか、どん

な所か、そんなこともよく分からなかつたの

です。それから、沖繩の色々な事を捜して勉

強しました。三十年前学校で日本の歴史を習

った父は「沖繩は昔琉球王国だ、たはずだ。

」と言い、タイの士官学校で勉強している弟

は「第二次世界大戦後、沖繩ではアメリカ基

地が設置された。」と言ってくれました。ま

た、日本人からたくさんのお話を聞きました。

しかし、本当に沖繩の事をよく知つていて説

明してくれる人はいませんでした。やはり自

分自身で沖繩に行かないと、一生沖繩の空は

どんな空か、分からないと確信しました。

一九九三年四月十日の朝、家族、友達と離

れ、生まれました土地を出て、知りあい一人も

いよいよ沖縄にやってきました。最初に沖縄に
 足を踏み入れた時、問題がありました。私の
 荷物はどこかに間違っていて送られていると聞き
 びっくりしました。しかし、迎えに来た沖縄
 県国際交流財団の方に会って、私の問題を解
 決してくれて、色々助けてもらいました。そ
 の日、天気があまりよくなく、雨も降って、
 ちよつと寒かったです。でも、私の心の中は
 本当に温かかったです。沖縄の空を見て、
 やはり、タイと同じように青いと思って、沖
 縄に住めると感じるようになりました。

私にとって、琉大の女子寮に住む事は素晴
 らしい経験で、色々勉強になりました。7
 生まれてから、初めて一人になって自分自身
 に責任を持ち、知らない人と一緒に生活をす
 る事は怖かったです。でも、みんなはとても
 親切で、色々教えてくれました。日本風のお
 風呂、掃除当番、先輩と後輩との関係などの
 珍しい事を習って、日本人の考え、生活にも
 だんだん慣れてきました。言葉の問題もあり

ましたが、お互いの心を理解したら、いつでも通じると思っていました。それで、言葉を通^らして日本の現実を見ることかできます。

学校で、外国人のための日本語の授業を受けながら、普通の授業を日本人の学生と一緒に受けています。日本語の授業では、色々な国の友達をたくさん作^って、日本の事だけでなく、台湾、中国などの国の事も聞き、私の世界をもっと広げています。

になり、日本の学生の考え、生活も習いました。だいたい、みんなは私に話しかける事を恥^づかしが^っていたようでした。だから、自分の方から話しかける事にしました。そうすると、日本の学生も実は私達、留学生の事をたくさん聞きたが^っていたと分かりました。私はタイの代表としてタイの事を教え、日本の学生は日本の事を教えてくれました。

その上、同じ県費留学生の間も、とても仲がよ^く、いつも一緒に遊^んんだり、過^ごしたり、

しました。同じ状態で日本に留学し、お互いの気持ち、問題をよく理解し合っていて、寂しくなったり、がっかりしたりした時にはいつも慰め合っています。県費留学生のみんなは私のここの兄弟のようですよ。そういうわけで、あまり寂しいとは思いません。

琉大の八重山芸能研究会というクラブに入部し、授業が終わってから、残った時間に八重山の踊りを習いました。夏休みに波照間島まで合宿に行きました。練習は朝から夜まで続

いて、暑くて苦しかったです。その後、みんなと一緒に海に行って、星を見ながら、色々な事を話したら、その日の疲れも消えました。

八重芸では、踊りだけではなく、人間との関係や文化などを習い、自分の心もとても成長してきていると思います。八重芸は毎年発表会をやるため、四十人の部員はみんな心を一つにして、一生懸命に練習し、素晴らしい発表会を作りたいと思います。だから、お

互いに助けたり、元気を付けたりして、最後まで頑張りました。練習は我慢できないくらいいきつくな^つて、私はもう止めようと思^つた事がありません。でも、みんなに元気を付けてもら^つて、一緒に舞台に出て、自分の踊りもお客さんに見せる事ができた時は本当にうれしく、知らず知らず涙が流れました。やめなくて、よか^つたと思^いました。その時の気持は一生忘れられないと思^います。八重芸のみんなに心から感謝^しています。

私の一年の留学はもうそろそろ終わりますが、残^っている時間が無駄にならな^いよう過^し、たくさん^のいい思^い出^を持^って帰^りたいと思^います。そして、この地球のどこにいても、空の方を向いたら、沖繩の青い空を思^い出^し、いつまでも私の励^みにな^るでし^よう。

沖縄のオレンジ色の空の下で私は目が覚める

レネット レガスピ トーレス

私はフィリピンから来た研究生です。私は
アジアの宗教と哲学に興味があります。

そして私は禪と仏教とめいそうの方法を勉強
するために日本に来ました。

私は沖縄が大好きです。私は沖縄でいろい
ろな経験をしました。去年、沖縄に来てから

私は沖縄のすばらしい空によくおどろかされ
ます。なぐさめやインスピレーションをく
れます。私は、沖縄の夜の空がどうしてオレ
ンジ色なのか、いつもふしぎに思っています
誰かに訊いたら、あれは那覇のネオンか、ア
メリカのキチの灯りだよ。と言いました。そ
れでも、沖縄のオレンジ色の空は、私にと
て今年のもとても大切な経験でした。オレンジ
色の空は、創造するという事や解放などをか
がみのように映し出しているようです。

私は首里の禪センターでサキヤマソーゲン
和尚といっしょにめいそうしたり、自分の部
屋で一人でめいそしたりします。今では、私
がめいそうしている時、オレンジ色のたまが
体の中で回っているのをかんじる事ができま
す。ヨイガの考えでは、オレンジ色は創造セ
いを意味します。

夏休みの時から、私は詩や俳句や歌を書け
るようになりました。日本語の俳句ではなく
て英語の俳句ですが。詩や俳句や歌を書く事

は昔からの夢でした。前はそれができなかっ
たのに、沖縄に来てからできるようになりま
した。それは、私が沖縄のオレンジ色の空の
下でめいそうをやる事ができるからでしょう
私はとてもうれしく思っています。

私の詩や歌は、自分の経験についてです。
たとえば、お寺の畳の部屋に静かに座って、
三時間、「一つ、二つ、三つ。」と何度も何度も
かぞえた事や、仲間の県費留学生とコザのテ
スコで楽しくおど、た事やせいきょうのベ

ランダに座して花火を見た事や、合気道の友達と琉大のルーッブを走った事や、親切でさいのうのある日本人と遠くの国から来た多くの外国人の友達の事についてです。

私がオレンジ色の空の下で学んだもう一つの大事な事は、ヨイカの考えではオレンジ色は解放という事も意味しています。だから、タイやビルマやチベットのお坊さんは、昔の生活を捨てたという事を表すためにオレンジ色の法服を着ているのです。昔のインドでも

そうでした。私は、今までの生活のしづうかんをかえる事を学び、親しい友達が沖繩を去る時にその友達と別れる事を学び、フィリピンのいい友達と祖父の死を受け入れる事を学びました。禪では、一番良いめいそうの方法は心を空にする事です。なぜなら、心を空にすればしんじつの世界を聞く事ができるからです。さいごに日本の有名な言葉で終わりたいと思います。来る者はこばまず、去る者はおわず。

一度きりのチャンス

奥聞 エミリ

私は家族とはなれて生活するのはした事があり、今回沖縄に来るのは五回目なのであまりふあんではありませんでした。沖縄に来るのをとてまたのしみにしていました。ただ一つのふあんは言葉のかべで親友が作れるかどうかという事でした。

一九九三年四月九日バンクーバー発羽田に着きました。そこで初めて南米とメキシコからの県費留学生を目にしてぎんちゅうしました。この時から私の一年間の県費留学生としての生活が始まりました。那覇空港に親戚がむかえに来ていました。私一人で親戚と会うのは初めてで新しいつぎあいになりました。カナダでは親戚がないので沖縄に来て親戚の大切さが分かるようになりました。おじやおばが両親の歴史のことについていろいろな事を話して下さいました。一年間両親とはなれていたけれど、きずなが強くなったように

かんじています。

夏休みに入つて本土に見学に行きました。

本土に行く前に自分でかならず行くこと決めた所は鎌倉でした。それは日本語のじやぎやうで鎌倉について勉強してすぐきやうみを持つたからです。本で読んだとおりがたしかめたくて鎌倉に着いてすぐ観光バスに乗つていらいなる所を見学しました。これらの中で、大仏を見てむかしこんな大きな物を作るのは大変だつただらうと鬼いました。大仏を気

に入つて次の日も自分で市営バスに乗つて見に行きました。大仏の前でここがしょうぐんさむらいの生まれた所だと鬼い出して、そのじだいのことについて鬼いふけていました。鎌倉に行くまで一人で電車に乗り、ホテルの予約をし、見物に行き、町の中も一人でたんけんしました。鎌倉にいる間自分の日本語の能力をためす事ができました。私が鎌倉に行く事を達成して本のとうりだったのであれしかつたです。

本土の二週間の旅行は私の目をさましてくれました。私はカナダのように大きい国から来ていて、日本は小さいのにちかくの都市でもちがいがありました。それはふいんきや言葉のアクセント、町の人々です。休みが終ってからぐうぜん、じゅぎょうで先生がむかしの日本は一つの都市は一つの国だったと説明してくれました。夏休みの見学は大切な勉強になりました。

琉大では日本語の勉強だけではなくて歴史、文化、日本人の考え方、むかし話などを、おもしろく説明してくれます。

留学の初めのころ琉大の八重山芸能研究会に入りました。火・金曜の夕方は踊りをして日本人の学生と交流をしました。十二月に行われる大きな発表会のために土曜は午後中、日曜は一日中練習しました。この時練習がぎつくて日本人の友達と涙を流した事もありました。発表会を終えてじゅぎょうじつした気持ちでいっぱいでした。八重山芸能に入ってこも

よかったです。琉球のでんとう芸だけでなく親友、いい鬼い出を作りました。

県費留学生としてこの一年間はきちょうな経験になりました。これは私の人生にやくだちます。フィリピン人の県費留学生とよくいようだんで「沖繩はマジックアイルランド」と言います。なぜなら今までにした事のないうばらしい経験をすることができたのです。沖繩に来て自分自身せいちょうしました。沖繩でいろいろな事について学び勉強になりました。

私から見たら沖繩の人々は自分のでんとうげいのう、しゅうかん、ふるさとを大切にすゝる気持が強いです。だから沖繩の人々はどこの国に行ってもその気持をずつと持っています。もし外国で同じ沖繩の人にあつたら同じ大切にすゝる気持がありますからすぐつながりができます。それは沖繩の人の血のつながりを大切にすることと同じです。

お世話になつた方々に心からかんしゃします。親戚のみんな、琉球大学の先生方、交流

財団の方々、ひろみウインフィールドへよく
たすけてくれました。バンクーバーの沖縄
県人会、八重山芸能研究会のみなさん、とし
て同じ県費留学生のみんないっしょいっしょを作っ
てくれてありがとうございます。さいごに
家族のみんなのチャンスを与えてくれいま
までささえ続けてくれてありがとうございます。

忘れられない一年間

嘉陽 宗之

私は県費留学生として琉球大学で勉強出来るように申し込みをする時、奨学金をもらえたかどうかの返事が来るまで待てなかったです。やっぱり何週間かたって父が家族に「今日は夕ご飯を食べてから家族かいぎをします。いい話があるから。」と言いました。父が私に奨学金にあたってたことを知らせた時、いろいろな感情を覚えました。これは去年の六月のことでした。

私はたくさん質問があったので、よく私の四年前県費留学生だった親友と話をしました。私はいろいろな心配をしていました。彼に「心配することはない。」と言われました。彼にとって県費留学生だった時は今まで一番楽しかった時だと聞いて私は少し安心しました。

私が沖縄に来る前、私のためにたくさんのお別れ会がありました。家族とか、友達とか、

沖縄県人会の人達ともカラオケレストランなどに遊びました。

私は、バンクーバーの飛行場にいる時、まだ本当に沖縄に行くと思わなかったです。私を見送るために、家族のほかにも友達八人も来てくれました。みんなにさよならを言った時、家族も友達も泣いていました。みんなが泣くを見るとすごく悲しかったけど、私の人生にこんないい友達がいってありがたいなあという気持ちも感じました。私は普段泣き虫ですが、その時全然泣かないで本当に不思議でした。

私は飛行機の中でいろいろなことを考えていました。この沖縄に一年間いることをすごく楽しみにしていましたが、家族からはなれて生活するのは初めてだったので少しこわかったです。

沖縄に到着して男子寮に荷物を持って行く前、私はバンクーバーにいる親友が言ったことを気にしていました。彼が男子寮は信じら